

北海道 150 年事業実行委員会第 1 回総会 議事録

日時：平成 28 年 11 月 7 日（月）13:30～14:00

場所：ホテル札幌ガーデンパレス 2階 孔雀・白鳥

【出席者】

<委員>

高橋はるみ会長（北海道知事）、高橋賢友副会長（北海道経済連合会会長）、岩田北海道商工会議所連合会特別顧問（高向副会長代理）ほか計 69 名出席（出席 28 名、代理出席 41 名、欠席 12 名）

<顧問>

遠藤顧問（北海道議会議長）

（欠席 2 名）

<事務局>

（北海道経済連合会）菅原理事・事務局長、水野総括部長

（北海道商工会議所連合会）菊嶋常務理事、守山事務局長

（北海道）山谷副知事、窪田総合政策部長、平野政策局長、岩崎北海道 150 年事業準備室長、青山主幹、武藤主査

● 窪田総合政策部長（事務局：北海道）

総会の議長は、ただいまご承認をいただきました規約にあるとおり、会長が務めることとなっておりますので、以降の議事進行は、会長にお願いいたします。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

それでは議事に入らせていただきます。

はじめに、議事の 1、「北海道 150 年事業基本方針」について事務局から説明をさせます。

● 岩崎北海道 150 年事業準備室長（事務局：北海道）

資料 1 をご覧ください。北海道 150 年事業基本方針は、2018 年に行う記念事業の基本的な考え方や枠組等をまとめております。

表紙をめくっていただき、1 ページに 150 年事業のキーパーソンである「北海道」の名付け親松浦武四郎さんと、北海道命名の経過について記載しています。

武四郎さんは、6 度に渡る探査を通じて蝦夷地の詳細な記録を数多く残しました。また、アイヌの人々がこの地域で安心して暮らしていけるようにしたいとの思いを抱き、行動された人でもあります。

2018 年に、生誕 200 年を迎える松浦武四郎さんの精神とその足跡に学びながら事業を進めます。

2 ページで、基本的な考え方を記載しています。事業の基本理念に続き、この記念事業のテーマとして、

- ・北海道 151 年目の新たな一步を踏み出す
- ・先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ

・“Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる ことを掲げています。

また、基本姿勢として、

- ・未来志向
- ・価値創造
- ・道民一体

を挙げております。

3 ページ、150 年事業の構成です。事業の基本理念やテーマを踏まえて、道民と北海道を愛する皆さんが、記念となる事業に取り組み、交流を広げ、北海道を盛り上げていきます。

図では、左側から、事業を行う主体別に、ローマ数字ⅠからⅢの事業に分けています。

また、ローマ数字Ⅳ及びⅤの部分は、実行委員会が行うサポートの取組であり、8、9 ページで記載しています。

事業は、原則、平成 30 年 1 月から 12 月に行い、実施効果を道内外に広く波及させていきます。

4 ページから 7 ページにかけて、各事業の実施主体や、事業費の考え方のほか、囲みの中で、いただいたご意見等をもとに、取組の例として記載しております。

4 ページでは「記念セレモニー」について記載しています。実行委員会が、企業や団体等の皆様の参画を得ながら、プロジェクトチームにより実施します。

事業費、財源の対応については、道の負担金のほか、実行委員会として道民の皆様のご理解に努めながら、ご寄付をお願いしてまいります。

今後、実行委員会では、担当する事業の規模、実施内容の詳細検討を行い、29 年度及び 30 年度の事業計画案と予算案の検討を進めることとなります。

実行委員会委員の皆様からお知恵をいただきながら、作業を進めていきたいと考えております。

記念セレモニーは、夏頃の特定の日を行うことを想定しており、実施内容として、アイヌの音楽や舞踏、お祭り、うたなどを例として挙げております。

今後、「セレモニー」等に関するプロジェクトチームを立ち上げますが、セレモニーの実施方法については、別途、会長が指名するアドバイザーの助言も得て、多くの方々に参加していただけるよう、検討を進めます。

このページでは、ほかに、関連する企画として、いくつか例を掲げております。こうした企画については、検討過程の中で、セレモニーの中で行われるものと、独立して行われるものなどに、整理されていくこととなります。

実行委員会が担う事業は、150 年事業を象徴する事業として位置付けておりますが、実行委員会のメンバーと、パートナーである企業等の皆様の参画も得て実行します。

例えば、パートナー候補として考えられる企業、団体がありましたら、情報提供をいただきたいと思います。事務局では、募集だけではなく、働きかけも行いたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

また、日頃から社会貢献活動に積極的に取り組まれている企業・団体の皆様に対して、パートナーのご検討を促していきます。CSR 活動の基盤にある企画力やノウハウ、ネットワーク等を最大限に生かしながら、150 年事業にふさわしい取組を企画、実施し、記念事業を魅力あるものにしたいと考えております。

5 ページからは、「北海道みらい事業」です。道民や団体、企業の皆様などが実施します。

今後、実行委員会として、基本方針の趣旨を踏まえた「北海道みらい事業」の検討や実施準備につ

いて、各地域、各方面に呼びかけ、来年4月からは、実施予定事業の受付・登録を行います。

みらい事業の事業費については、各主体の自己負担を基本としておりますが、道と実行委員会において、今後、みらい事業への支援内容について検討を進めます。

個別事業としては、北海道博物館における松浦武四郎に関連した特別展や、三重県松阪市との交流事業のほか、地域のデータベースの構築や、北海道の発展を支えた政策史の作成などを検討しております。また、6ページでは、スポーツイベントと連携した事業や、北海道遺産プロジェクトの活性化につながる取組のほか、北方領土関連事業などを記載しております。

なお、「北海道みらい事業」に関し、各委員の皆様におかれましても、記念となるお取組について、今後ご検討を賜りますよう、お願い申し上げます。

7ページ、「関連推進施策」です。道などが150年を契機として継続的に取り組むものです。

「新北海道史」の後継史の編さんや、道庁赤れんが庁舎のリニューアル事業のほか、北海道百年記念施設のあり方の検討などを掲げております。

また、仮称ではありますが「北海道未来人財応援基金」など、人材育成に係る取組をお示しております。

8ページ、「北海道みらい事業」の支援です。図にありますとおり、実施主体からの提案や相談に対して、実行委員会がしっかりとサポートできるようにしたいと考えております。

9ページ、PRについてです。実行委員会が担当します。

事業のロゴマークについては、今月中旬以降、応募いただいた作品についての審査と絞り込みを行い、ネットで投票を行うなどして、来年1月に決定、公表する予定です。採用作品に対しては賞金10万円が授与されます。

また、これに準じる優秀賞の2作品に対しては、JAグループ北海道様から道産品が提供される予定です。ご協力をいただき、心から御礼を申し上げます。

なお、事業のキャッチフレーズは、「その先の、道へ。北海道 / Hokkaido, Expanding Horizons.」としております。

10ページでは、推進体制として「実行委員会」について記載しております。

11ページ、スケジュールです。事業の進め方、手続の時期などを記載しています。平成30年の事業実施に向けて、来年の1月や4月には、関係する事務をスタートする予定です。

15ページ、4のその他ですが、検討会議の設置前において、道に対して事業アイデアのご提案がありました。提案内容は、道のホームページでも紹介しておりますが、今後の事業の検討においても参考としたいと考えております。

16ページから18ページにかけて、作文「北海道みらい日誌」のテーマ別の最優秀作品を紹介しております。若い方々の北海道への思いを大切に、記念事業を行いたいと思います。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。ただ今説明があった内容について、ご質問などがあれば挙手願います。よろしいでしょうか。それでは、ご質問がないようですので、次の議事に移らせていただきます。議事の2、「【1号議案】平成28年度事業計画（案）」について事務局から説明させます。

● 岩崎北海道150年事業準備室長（事務局：北海道）

資料3により、平成28年度の事業計画案について説明します。

実行委員会が取り組む事項について、関連する情報も含めて記載しております。

「1 実行委員会事業計画の作成」にありますとおり、「基本方針」を踏まえ、今年度中に、実行委員会の事業計画（案）を作成し、これをわかりやすく紹介する小冊子を作成します。

実行委員会が担当する事業である、記念セレモニー及び関連する企画などについて、いつ、どのように実施するのかなどを整理します。

「2 事業PR」についてですが、世代の違いなども踏まえ、150年事業について、皆様がご自身に関わりのあることと受け止めていただけるよう、新聞やTVなどメディアとも連動して取り組みます。

PRツールとして、作成するロゴマークや、ポスター、チラシ等を活用して、150年事業の認知度を高め、気運の醸成を図ります。

また、3から5の取組を行い、準備を進めます。

「3 北海道みらいメンバーシップ」に関しては、サポーター、スポンサーである、個人、企業・団体等からのご寄付・ご協賛をお願いしていきます。また、パートナーとなる企業、団体等を募集します。事業の企画案をお聴きするなどして、協議を行います。

「4」にあるとおり、個々の事業の検討は、プロジェクトチームを設置して検討を行います。

また、「5」にあるとおり、個別事業の企画、検討や事業間の必要な調整を図るため、運営会議を開催します。

「6 その他」ですが、「北海道みらい事業」については、支援方法の検討に加え、来年4月からの事業の提案・登録に向けて準備作業を進めます。必要な資金を確保するため、クラウドファンディングの活用についても検討を行います。

また、予算に関連する事項として、平成28年度における、実行委員会の会議運営やPR関連経費などについては、原則として、道予算で対応すること、北海道シンクタンク協議会様から、約112万円のご寄付をいただく予定であることについても、あわせてご報告いたします。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。ただ今説明があった内容について、ご質問等があれば挙手願います。よろしいでしょうか。ご質問がないようでございますので、ご説明申し上げました【1号議案】について、採決させていただきたいと思っております。

【1号議案】についてご異議はありませんか。

● 委員

異議なし。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございます。それでは、ご異議がないようですので、事業計画（案）は承認されました。次に、議事の3、その他について、事務局から説明をさせます。

● 岩崎北海道150年事業準備室長（事務局：北海道）

会長の背中側に掲示されておりますが、この度、北海道北広島高等学校書道部にご協力をいただき、北海道150年を祝う横断幕を作成していただきました。

書道部は、顧問の先生のご指導の下、現在、2年生と1年生の計33名で活動されています。

これまで輝かしい成績を収められ、最近では、書道パフォーマンスでの作品なども注目されています。

今回、書に添えられた手形は、生徒の皆さんのアイディアとのことで、「将来の北海道をこの手で支えていく」とのメッセージを込めたものであるとお伺いしております。

北広島高校並びに書道部の皆様には、この場をお借りして、お礼を申し上げます。

また、北海道150年ロゴマークの募集チラシを配付しております。

事務局には、受付を開始した11月1日以降、幅広い世代の方々から作品が届いております。

募集締切の11月14日までまだお時間がありますので、関係の皆様への周知などにつきましてよろしく願いいたします。

最後になりますが、札幌市内のホテルの取組となりますが、11月1日から30日までの間、北海道150年事業を応援、PRする特別ランチを提供されるとともに、松浦武四郎の生涯やアイヌの方々との交流をテーマとしたパネル展が開催されておりますのでご紹介いたします。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。最後に、全体を通してご質問などがあればお伺いをいたします。

それでは、ご発言等がないようですので、本日の議事は全て終了させていただきます。ご協力、まことにありがとうございました。

それでは、事務局に戻します。

● 窪田総合政策部長（事務局：北海道）

大変お疲れ様でした。

本日ご説明いたしました「基本方針」、ご承認いただいた「平成28年度事業計画」に沿って取組を進めてまいります。

また、運営会議や北海道みらいメンバーシップの運営方法などにつきましては、会長が規程を定め、後日皆様にご連絡を申し上げたいと考えております。

あわせて、プロジェクトの検討状況やPRの状況などについても、適宜お知らせをさせていただきたいと存じます。運営方法などへのご意見等がございましたら、随時事務局にお寄せをいただければありがたく存じます。

それでは、以上をもちまして第1回総会を閉会させていただきますが、この後、今ご紹介申し上げました北広島高校書道部の皆様が制作した作品の前で記念写真を撮影したいと存じますので、役員、顧問の皆様方、委員の皆様方は作品の前にお集まりいただきたく存じます。

（写真撮影後、解散）

（以上）